

第3回東京駅周辺高精度測位社会プロジェクト検討会 議事要旨

1. 日時

2015年1月30日金曜日 15時20分～17時00分

2. 場所

KDDI 大手町ビル 22F

3. 議事内容

(1) 実証実験について

- 事務局より、実証実験の概要、実証実験結果（速報）、実証実験結果のとりまとめの方向性について報告を行い、構成員で意見交換を行った。

(全体討議)

- 社の枠にとどまらない情報連携のあり方など横の連携をいかに実現するかも重要。社の枠ではなく、技術の枠で比較するとよい。
- 取りまとめの際に、測位精度だけでなく、技術ごとの準備の手順や最高精度が出るまでの調整項目、単位面積や個数あたりのコストなどの指標をまとめられると良いのではないか。
- 各社の競争が基本ではあるが、共通化したほうが良い部分もあると感じた。複数の測位技術の組合せをどうするかが課題だが、うまく共通化できる仕組みが作れるとよいのではないか。
- 各社が全体を面的に調査するのは難しいため、最低限の品質、サービスに十分なデータ精度が得られるデータ量を整理した上で、各社が分担してエリアをカバーするという仕組みができれば、日本発の屋内測位サービス技術がまわっていくのではないか。そのため、データの標準化や運用方法に関する議論が必要であり、成長のループを作るような枠組みを構築していただきたい。
- 実証実験の前提として、Bluetooth や非可聴音は位置を測定するために新設していること、Wi-Fi は測位のために設置したのではなく既存の通信用や業務用に飛んでいるWi-Fiの電波を使用しているということなど前提条件を明記しないと誤解を招く可能性がある。
- 今回の実験で、今のままでも十分使えるレベルであり、明日からでもサービスが可能なレベルに来ていると認識できた。ハードルを下げて可能なところからスタートし、一

歩ずつステップアップしていくことでオリンピックの時には世界を圧倒できるレベルになっているはず。

- 屋内測位の精度を同じ基準で比較することは難しいため、精度評価の際、測位環境、評価環境の条件を整理しておくことが大事である。

(2) 運用検討について

- 事務局より、運用検討ワーキンググループの検討状況の報告を行い、構成員で意見交換を行った。

(全体討議)

- 測位環境整備手法のパターンが既に混在するという状況に対しては、リファレンスづくりが求められるのではないかと。技術的な要素だけでなく、国際標準を取るところは非常に大事だと考えている。
- サービスに魅力がないと、何のために地図をアップデートして提供するか、というモチベーションがはっきりせず、地図や測位の整備・更新のループが回らないため、サービスを具体化することが重要。儲かるだけでなく、各施設管理会社が共通してやらなければならない、荷が重いことをサポートするという観点が大事。特に防災対策は施設管理にとって荷が重い分野であり、高精度測位技術を活用し得る。高度なサービスもある世界一安全な都市東京、ということが言えるようにサービスをもっと具体化し、東京駅プロジェクトのなかに入れていくことをして欲しい。

(3) 今後のスケジュール

- 第4回の検討会では、実証実験や運用検討の報告とともに、来年度の実証実験計画及び検討の方向性について議論を行う。

以上